

一 教学入門（4） 信行学一

信行学 どれも欠けても正しい仏道修行にはならない。

一 閻浮提第一の御本尊を信じさせ給へ、
いちえんぶだい

あひかまへて・あひかまへて・信心つよく候て三仏の守護をかうむらせ給うべし、
あひかまへて・あひかまへて・しんじんつよくこうてさんぶつのかうごをかうむらせ給うべし、

行学の二道をはげみ候べし、行学たへなば仏法はあるべからず、我もいたし人をも教化候へ、
ぎょうがくのにだうをはげみこうべし、ぎょうがくたへなばぶつぽうはあるべからず、われもいたしひとをもけわ化候へ、

行学は信心よりをこるべく候、力あらば一文一句なりともかたらせ給うべし
ぎょうがくはしんじんよりをこるべくこう、ちからあらばいちもんいっくじなりともかたらせ給うべし

① 信（日蓮大聖人の仏法を信じて受け入れること）

「以信得入」仏の境涯に入るための唯一の道。此の経に於いては信を以って入ることを得たり
「いしんてくとくはつちゅう」ぶつのかいげいにはいるためのぐいぎののみち。このきょうに於いてはしんをもちいてはいることをうけたり

② 行（御本尊を信受した具体的な実践）

「自行」「化他」の両面があり、どちらが欠けても仏道修行は完成しない。

自行 Ⅱ 自分が法の功德を得るために修行すること。【勤行】

化他 Ⅱ 他人に功德を受けさせるために仏法を教える実践。【弘教。広宣流布の実践活動】

末法に入て今日蓮が唱る所の題目は前代に異り自行化他に亘りて南無妙法蓮華経なり
まっぽうにはいってけふのつげんがとなうるところのたごうめいはぜんたいにことなり自行けわ化他にわたってなんむめうめうけつげんなり

★生命変革の実践 勤行と弘教

勤行 … 御本尊に向かって読経・唱題すること。生命変革の具体的な実践の一つ。

深く信心を発して日夜朝暮に又懈らず磨くべし何様にしてか磨くべき
たかくしんしんをはつしてにちやちむろにまたけあらずとぎやくべしなげようにしてかとぎやくべき

只南無妙法蓮華経と唱えたてまつるを是をみかくとは云うなり
ただなんむめうめうけつげんとなうたてまつるをこのことを見かくとはいふなり

弘教 … 仏の使いとして、仏の振る舞いを実践する最も尊い行為である。

「我もいたし人をも教化候へ … 力あらば一文一句なりともかたらせ給うべし」
「われもいたしひとをもけわ化候へ … ちからあらばいちもんいっくじなりともかたらせ給うべし」

「かかる者の弟子旦那たらん人人は宿縁ふかしと申うて日蓮と同じく法華経を弘むべし」
「かかるもののかしやくしやくどのたらんひとひと宿縁ふかしとまをいふてにちれんとおなじくほうわきょうをひろむべし」

③ 学（御書を根本にして正しい仏法の法理を学ぶ）

御書が根本である。

教学の研さんがないと自分勝手な理解に陥る、誤った教えを説く者に騙されてしまふ。

正しい仏法の法理を学ぶことによって、より深く完全な信に立つことができる。正しい行を行なうことができる。